

酪農の危機が叫ばれている。中央酪農会議が国内の酪農家157人を対象に実施した「日本の酪農経営実態調査(2023年)」によると、84・7%が過去1ヶ月の牧場経営が赤字になっていると回答した。また、離農を考えることが、「よくある」「たまにある」との回答は、合わせて全体の58%に上っている。

農林水産省の畜産統計(23年2月1日現在)によれば、全国の酪農家戸数は前年比5・3%減の1万260戸。酪農家戸数は高齢化や後継者難などから長期にわたって減少傾向が続いているが、00年比約の3分の1の水準にまで減少している。これに加えて、23年には、ウクライナ攻後の飼料価格高騰、

# 経済透視図

93

**離農率高まる**

# DXで持続可能な酪農に



SMB<sub>C</sub>田興証券  
プライベート・  
キャピタル・  
ソリューション室

高橋  
克哉

いふ。  
最近は、このようないくつかの問題が、農業生産の発展に大きな影響を及ぼす。まず、生産性向上のための技術開発と、それに伴う生産設備の整備が挙げられる。また、畜産業では、牛の育種改良による生産性の向上が注目されている。さらに、農地の有効利用や、農業生産の経営改善なども重要な課題である。

せるには、飼料の国産化、他の畜種や製造業と比べて長い労働時間の短縮、オランダの4分の1ともいわれる低い労働生産性の改善などを取り組むべき課題として挙げられる。

ルトランプフォーメーション（DX）の推進により、生産性向上や省力化に取り組む動きがみられる。

また、牛に  
ブルデバイス  
を付けて取得した  
クラウドシス  
テムの蓄積・分析する  
発情兆候の検知  
分娩間隔の短  
い兆候の検知

ウエアラル。どの牛を後継とします  
を取り付けて残すべきかという意  
思決定をサポートしている  
ための遺伝子検査のほ  
とで、か、和牛子牛販売の収  
益化に向け、データに受け取  
緒や、分  
・通知に  
の許諾を

無断転載・複写禁止